

第 59 回日本環境化学会講演会

「水銀の毒性、環境中の動きとその管理－水俣条約の目指すもの－」（仮）開催のご案内

タイトル：「水銀の毒性、環境中の動きとその管理－水俣条約の目指すもの－」（仮）

開催日時：平成 29 年 7 月 25 日（火曜日）10:00～17:00

開催場所：東京証券会館ホール 8F 342 席

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8

地下鉄東西線、日比谷線 茅場町駅（直結）

地下鉄銀座線、都営浅草線 日本橋駅 D2 徒歩 5 分

東京駅八重洲北口 徒歩 10 分

参加方法：事前に Web 登録をお願い致します。6 月オープン予定。

参加費：会員 4,000 円（不課税）、非会員 8,000 円（税込）、予稿集のみ 4,320 円（税込）

趣旨：

人類並びに環境を水銀汚染から守るための国際条約である水俣条約が 2013 年 10 月に締結され、2017 年中にも発効するものと予想されます。

水銀は毒性の強い元素で、特にメチル水銀は体内に取り込まれて極めて強い神経毒性を示し、水俣病の原因ともなりました。また、近年では低濃度ばく露による胎児や子供の発達などへの影響なども懸念され、メチル水銀の多い種類の魚を食べすぎないように、妊婦にたいして注意喚起が行われているところです。一方、金属水銀は常温で液体の形で存在し、金を溶かしてその精製に使えるなどの特徴をもち、古くから様々な目的で使われてきました。さらに、石炭燃焼などにもない大気中に放出されることも知られています。こうした人間活動に伴う環境放出の結果、現在の環境中を動き回る水銀の量は、産業革命以前に比べて 3 倍程度にまで増えたと推測されています。

一度環境に放出された水銀は大気や水を経由して地球全体に広がり、生物の活動で毒性の強いメチル水銀に姿を変えて生物に吸収され、やがて食べ物を通じて私たちの体に入って蓄積し、悪影響を及ぼすことが懸念されています。こうした水銀の環境中の動きやヒトへの影響について、最新の知識を整理して紹介するとともに、水俣条約並びに国内の法律でどのように規制して人の健康や環境を守ろうとしているか、今後に残された課題は何かについて、わかりやすく解説します。

講演者：

1) 環境省環境保健部水銀対策推進室 高橋一彰室長

水俣条約のあらましと国内法体制についての話を中心に報告いただく。

2) 京都大学 高岡昌輝教授

国内を中心に水銀の利用から廃棄に至る流れと環境への放出過程、その管理について報告いただく。

3) 静岡県立大学 坂田昌弘教授

水銀の大気中化学形態と越境輸送問題について、デポジションに関する観測結果などを中心に報告いただく。

- 4) 国立環境研究所環境計測研究センター 山川茜研究員
水銀の分析法の概要を説明し、特に同位体分析の意義並びに応用に関する最新の研究成果をまとめて報告いただく。
- 5) 東北大学 仲井邦彦教授
メチル水銀の胎児や小児に与える影響を調べるための出生コホート調査を宮城県気仙沼で長期にわたり実施してきており、結果を中心に報告いただく。
- 6) 国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 鈴木規之センター長
環境省推進費で全球レベルの水銀動態モデル開発研究（H27～29）を率いてちょうど研究が終了したところで、研究成果を中心に、UNEP 水銀パートナーシップなどの国際動向も交えながら、水銀の地球規模での環境動態とその適正管理について報告いただく。
- 7) 総合討論（パネルディスカッション） 予定
各講師の講演を踏まえ、水銀研究並びに対策の今後にむけての期待と課題を整理し、講演会のまとめとする。

スケジュール（予定）

9:30～受付開始

10:00～開会の挨拶

10:10～環境省環境保健部水銀対策推進室 高橋一彰室長

11:00～京都大学 高岡昌輝教授

11:50～昼 食

13:00～静岡県立大学 坂田昌弘教授

13:50～国立環境研究所環境計測研究センター 山川茜研究員

14:25～東北大学 仲井邦彦教授

15:15～休 憩

15:30～国立環境研究所環境リスク・健康研究センター 鈴木規之センター長

16:20～総合討論準備

16:25～総合討論

16:55～閉会の挨拶